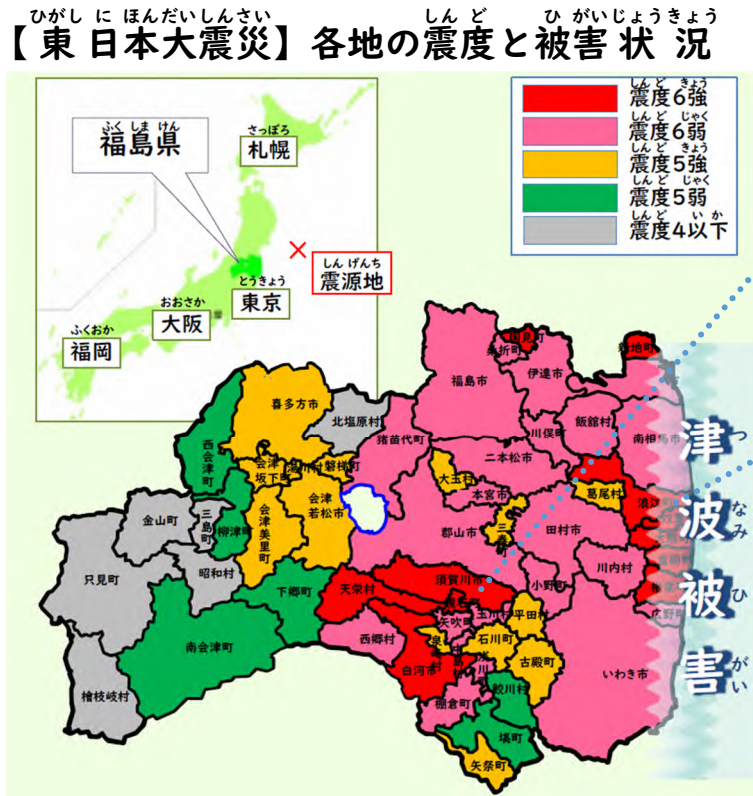


5 ふくしまけん これからの福島県

じつげん (1) ひとつ、ひとつ、実現する ふくしま

① 【東日本大震災】各地の震度と被害状況



【被害状況】2023年8月1日時点

- 最大震度: 震度6強
- 亡くなった人: 4,168人
(ひなん生活などで体調をくずして亡くなった人2,337人を含む。)

(福島県「小中学生向け10の疑問から学ぶふくしま復興のあゆみ」より)

つかむ

写真や資料から、気づいたことを話し合い、学習問題をつくりましょう。

ふっこう 震災からの復興

さくらさんたちは、東日本大震災の写真や福島県が作成した「小中学生向け10の疑問から学ぶふくしま復興のあゆみ」を見て、気づいたことについて話し合うことにしました。



小中学生向け
10の疑問から学ぶ
ふくしま復興のあゆみ



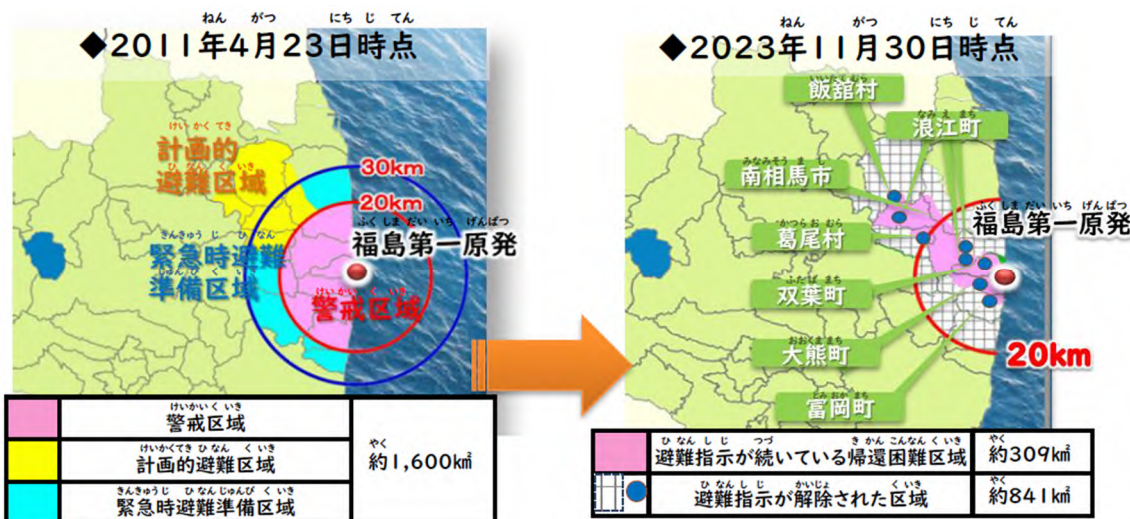
「東日本大震災では、多くの人々が亡くなったんだね。津波によって、浜通り地方では、大きな被害が出たそうだよ。」



「それに原子力発電所の事故で、放射性物質が外に出てしまい、大きな被害につながったと聞いたことがあるよ。」

※ 原子力発電所事故で、近くに住む人は健康と安全を守るため、避難しなければならなくなりました。国で決めた三つの区域を避難指示等区域といいます。

② ひなんしじとうくいき 避難指示等区域※の変化



(福島県「小中学生向け10の疑問から学ぶふくしま復興のあゆみ」より)

③ ひなんしゃすう 避難者数の変化

(単位:人)

	県外避難者	県内避難者	避難先不明者	合計
2012年5月	62,038	102,827	0	164,865
2013年5月	54,680	97,286	147	152,113
2014年5月	45,854	83,250	50	129,154
2022年4月	23,677	6,549	5	30,231
2023年8月	20,704	6,099	5	26,808



「避難指示等区域は小さくなり、避難している人は少なくなってきたみたいだね。」



「でも、今でも避難している人がいるよ。復興は、どのくらい進んできたのかな。」



「福島県は、これからどのような県を目指していくのかな。」

さくらさんたちは、話し合ったことをもとに、学習問題をつくりました。

学習問題

福島県では、復興に向けてどのような取り組みが行われ、これからどのような県を目指していくのかな。

【調べること】

- 福島県の復興に向けた取り組み。
- これからの県づくりに向けた取り組み。

【調べ方】

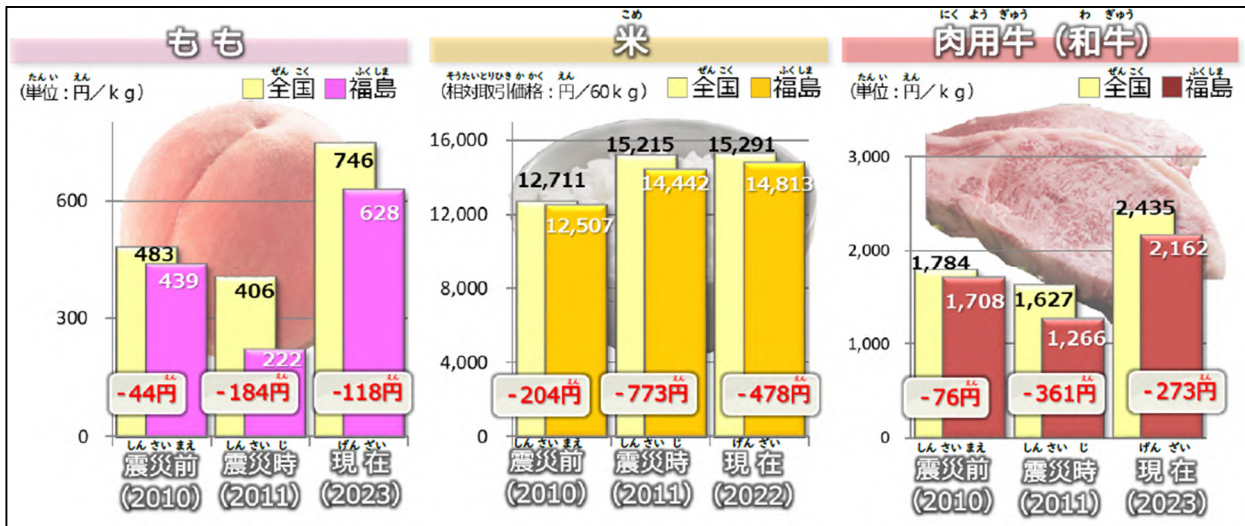
- パンフレットやインターネットを使って調べる。
- 県庁で働く人にインタビューをしたり、メールや手紙でたずねたりする。

【まとめ方】

- 福島県の復興に向けた取り組みをイメージマップにまとめる。



① 主な農産物の全国との価格差



② 県産農産物の輸出品



(福島県「小中学生向け10の疑問から学ぶふくしま復興のあゆみ」より)

調べる

福島県は、農業の復興に向けてどのような取り組みを進めてきたのかな。

復興に向けて取り組んできたことは、ほかにもあるのではないかな。



ふくしまの食を守るために

さくらさんたちは、福島県の農業の復興について調べ、わかったことを話し合いました。



「福島県にはおいしい食べ物がたくさんあるのに、原子力発電所事故の影響で今でも全国価格との差が回復していない農産物もあるんだね。」



「海外への輸出品量は、震災前の2倍以上にふえているね。福島県ではどのような取り組みを進めてきたのか、県庁で働く人に聞いてみようよ。」



③ ほうしゃせいぶつしつ けんさ
放射線物質の検査



④ じさんぎょうか
6次産業化の取り組み



⑤ のうさんぶつ
海外で農産物のPR



⑥ オリジナル品種の開発



のうりんき かくか に いた
福島県農林企画課の丹伊田さんの話



原子力発電所事故の後、福島県の農林水産物は放射線物質の検査で安全性を確保

認してから出荷するようになりました。それでも風

評被害が残っており、福島県の農林水産物は安全で

おいしいことをいろいろな場所でPRしています。

今では、たくさんの国と地いきで、福島の食べ物がよろこばれています。

現在、福島県では、農家などの地いきのさまざまな

方と商品づくりに取り組む6次産業化や、オリジナ

ル品種の開発を進めています。また、福島ならではの

みりよくを伝える動画をつくって配信もしています。

ふうひょう ひが い
風評被害



まちがった情報が広がることによるごみや思いこみで、福島県産のもの購入や、福島県に来ることがさけられてしまうこと。

じさんぎょうか
6次産業化

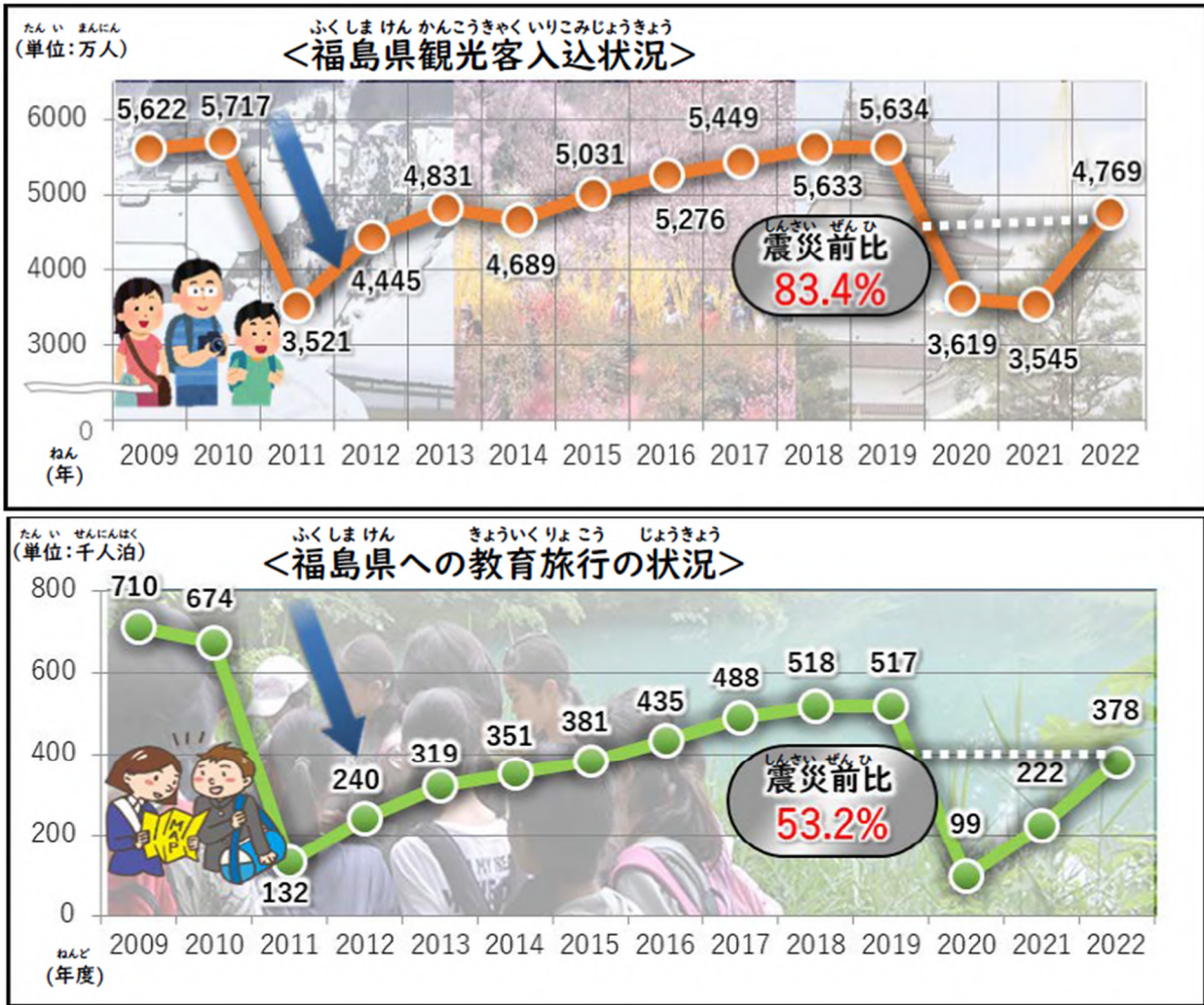


農産物や海産物などを生産（1次産業）している人や企業が、自らせいぞう・加工（2次産業）し、販売（3次産業）まで行うこと。



のうりんすいさん
福島県農林水産部
ピーアール
PR動画

① 観光・教育旅行の状況



(福島県「小中学生向け10の疑問から学ぶふくしま復興のあゆみ」より)

調べる

福島県は、観光業の復興に向けてどのような取り組みを進めてきたのかな。

新型コロナウイルス

2019年に中国で発見され、全世界に広がりました。新型コロナウイルスに感染したことが原因で、熱や、せきなどが出る病気を「新型コロナウイルス感染症」といいます。

福島県のみりよくを知ってもらうために

さくらさんたちは、福島県の観光業の復興について調べ、わかったことを話し合いました。



「震災後に、福島県をおとずれる人数が大きくへったけれど、2019年ごろにはかなり回復しているよ。」



「2020年ごろは、新型コロナウイルスの流行で、福島県をおとずれる人数がまたへったけれど、少しずつ回復しているよ。福島県では、どのような取り組みをしているのかな。」



かんこうこうりゆうか はしもと
福島県観光交流課の橋本さんの話



福島県では、東日本大震災・原子力発電
所事故を経験した福島ならではの観光である

「ホープツーリズム」を中心に、国内外のさまざまな人
たちに、きょうみをもってもらえるツアーを提案して
います。

浜通り地方の海をいかした旅「ブルー・ツーリズム」、
緑ゆたかな農村地いきで自然や文化、地いきの人との交
流を楽しむ「グリーン・ツーリズム」など、旅を通して
福島県のみりよくを多くの人に知ってほしいです。

ホープ
ツーリズム

「東日本大震災・原子力災害伝承館」や
「震災遺構浪江町立請戸小学校」など、震災
の被害や福島の今を学
び、これからの社会や
自分自身について考
える旅行プログラムで
す。

福島県ホープツーリズム
ホームページ

「福島県は、震災や新型コロナウイルスの影響を乗り越えて、
ひとつ、ひとつ、復興へのあゆみを進めてきたんだね。」

例えばこんなミライの実現を目指します

「ひと」分野 <p>だれもが医療、教育などを平等に受けることができる。</p>	<p>自分で考えて解決できる子どもたちが育っている。</p>	<p>年齢や性別、国籍などに関わらず、自分らしく暮らしている。</p>
「暮らし」分野 <p>子どもからお年寄りまでいきいきと健康な生活を送っている。</p>	<p>ふくしまに魅力を感じ、暮らす人が増えている。</p>	<p>地球温暖化対策に県民一人一人が積極的に取り組んでいる。</p>
「しごと」分野 <p>再生可能エネルギーに関するしごとが増え、全国的にも有名な地になっている。</p>	<p>若者、女性、お年寄りなど誰もが安心して働ける環境が整っている。</p>	<p>ふくしまの特産物や観光地が高い評価を取りもどしている。</p>

① 福島県総合計画と
 エスディージーズ
SDGsの関係
 (「福島県総合計画子ども版」より)



調べる

福島県は、未来に向けて、これからどのような取り組みを進めていくのかな。

SDGs

2015年に国際連合サミットで定められた目標のこと。2030年までにくらしや地球を守りながら問題を解決し、ゆたかな未来をつくるための17の目標があります。

再生可能エネルギー

くり返し何度でも使え、発電時に地球温暖化の原因となる二酸化炭素をほとんど出さない太陽光・太陽熱、水力、風力、地熱などのエネルギーのこと。

県民の願いをかなえる県づくり

福島県では、2050年ごろの未来を想像しながら、2030年までにかなえたい福島県の姿と、そのために取り組むことをまとめた「福島県総合計画」を作成しました。

その計画は、将来の地いきづくりや県づくりを「自分のこと」として考えてもらうために、小学生から大人まで、はば広い年代の県民との話し合いやアンケートなどを通して生まれた意見をもとにしてつくられました。



「『ひと』『暮らし』『しごと』の三つの分野でめざす未来をえがいているのね。」



「SDGs (エスディージーズ) の考え方とも深く関わっているんだね。」



「福島県の未来をつくる計画なんだね。具体的には、どんなことをするのか。県庁で働く人に聞いてみようよ。」



② おじんこうくうき
無人航空機



③ 川の環境を調べる活動
かんきょう かつどう

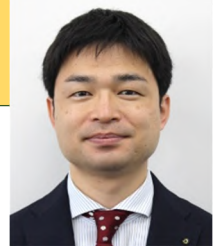


④ ドローンを利用した実験の様子
じっけん



⑤ グリーンカーテン

福島県復興・総合計画課の齋藤さんの話 ふっこう そうごうけいかく か さいとう



福島県では、「ひと」「暮らし」「しごと」の三つの分野で、こんなことに取り組もうということも決めています。

例えば、「ひと」の分野では、子どもからお年寄りまで安心して健康けんこうに暮らせるよう、健民アプリの活用など、健康づくりの取り組みを進めています。

「暮らし」の分野では、美しい自然しぜんを守るため、地球温暖化対さくやりサイクルなど、環境かんきょうにやさしい取り組みを進めています。

「しごと」の分野では、震災の被害を大きく受けた浜通り地方を中心に、ロボットや再生可能エネルギーなどの分野で新しい研究を進めています。

「福島県総合計画」について、もっと知ってもらうために、小中高生向けの出前授業じゅぎょうも行っています。みなさんも福島県の未来みらいについて、いっしょに考えてみませんか。

まとめる

これからの^{ふくしまけん}福島県について、調べたことをもとに、^{ふっこう}復興年表をつくりましょう。

学習問題をもう一度かくにんしよう！



学習問題

福島県では、復興に向けてどのような取り組みが行われ、これからどのような県をめざしていくのかな。

さくらさんたちは、これまでの学習をふり返り、これまでの^{ふくしまけん}福島県の^{ふっこう}復興に向けた取り組みと、これからの県づくりの取り組みについて、グループで話し合いました。そして、福島県の復興の様子を^{つた}伝える復興イメージマップをつくることにしました。

【復興イメージマップ例】

^{はまどお}浜通り地方を中心に、新しい仕事を生み出すための取り組みが進められています。

みらい 未来に向けた県づくり



福島ならではの食、みりょくを県内外でくり返し^{ピーアール}PRしました。

復興に向けた取り組み



【イメージマップに表す】

- ① 東日本大震災・原子力災害に関わることを、写真やふきだしを使って表現する。
- ② 復興に向けた取り組みに関わることを、写真やふきだしを使って表現する。
- ③ 未来に向けた県づくりに関わることを、写真やふきだしを使って表現する。
- ④ ^{きょうつう}共通する取り組みや関わりのあることがらがあれば線^{むす}で結ぶ。

ひがしにほんだいしんさい げんしりょくさいがい 東日本大震災・原子力災害



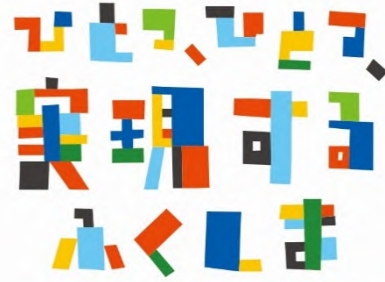
つなみひがい なみえまち 津波被害：浪江町

ふうひょうひがい 風評被害

地震だけでなく原子力災害により、被害は大きくなりました。



① 震災の後につくられたスローガン



② 2021年につくられた新スローガン

広げる

これまでの学習をもとに、自分たちはどのようなことを「実現」したいか話し合ってみよう。

2030年 未来のふくしま



「福島県では、震災から10年がたった2021年に新しいスローガンを発表したんだよね。」



「新しいスローガンには、どのような願いがこめられているのかな。」

福島県クリエイティブディレクター 箭内 道彦さんのメッセージ

東日本大震災の一年後、2012年3月に発表された「ふくしまからはじめよう。」は、未来への意思を宣言し、新しい流れを創造してきました。そのバトンをしっかりと受け取って、現在の、そしてこれからの福島に合わせて新しく生まれたスローガンが、「ひとつ、ひとつ、実現する ふくしま」です。



大きなこと、だけじゃなく、ほんの小さな何かをかなえることも、今日の、明日の、福島県を創るひとりひとりの、ひとつひとつ。そんな思いも込められています。

文字のデザインは、これまでの「卵」の殻を破って、たくさんの豊かで多様な人々の力が重なることが、色と形で表現されています。

優しく、あたたかな、ひとりひとりの「実現」のひとつひとつが、今日のふくしまを明日につないでいきますように。



「わたしたち一人一人の小さな『実現』の積み重ねが、福島県の未来をつくっていくのかもしれないね。」